シグマ研究委員会

６２年度第７回運営委員会議事録

日時　　昭和６３年３月２２日（火）１３：３０－１７：３０

場所　　原研本部　第５会議室

出席者

椙山（東北大）、村田（NAIG）、五十嵐、金子、長谷川、水本（原研）

幹事：浅見（原研）

オブザーバー：飯島、川合、吉田（NAIG）、内藤（原研）、松延（住友原工）

配付資料

１．６２年度第６回運営委員会議事録（案）

２．ACTION LIST

３．シグマ研究委員会会合開催状況

４．IAEA Advisory Group Meeting on the Influence of Target and Sample Properties on Nuclea Data Measurements

５．IAEA Consultants' Meeting on the Physics of Neutron Emission in Fission

６．核データ国際会議準備状況

７．核データ国際会議　資料

８．会議運営の方法について

９．国際熱核融合実験炉（ITER）について

１０．医学用原子分子・原子核データＷＧ　拡大幹事会議事メモ

１１．特殊目的核データＷＧ計画

議事

１．前回議事録確認

資料１により確認を行った。また、椙山氏からＩＮＳＦＮＴについて補足説明があった。

２．事務局報告

（１）Action List

前回会合に関するAction List（資料２）の説明があり、今後も毎回この方式でリストを作ることにした。

（２）ＷＧ会合開催状況報告

資料３により報告があった。

3．IAEA Advisory Group Meeting on the Influence of Target and Sample Properties on Nuclea Data Measurements

水本氏から資料４により標記会議について説明があり、この会議に関連して実験についてのアンケート調査をするので協力して欲しいとの要請があった。これに関連して、椙山氏からトリチウム管理の問題について指摘があり議論を行った。

4．IAEA Consultants' Meeting on the Physics of Neutron Emission in Fission

五十嵐氏から資料５により標記会議の概要について説明があった。その中でＩＡＥＡから正式に要請があったこと、参加者は２０名程度の見込み等の話があった。また、意見・オブザーバー参加希望があったら４月の第１週までに連絡して欲しいとのことであった。

5．核データ国際会議準備について

五十嵐氏から資料６により６２年９月以降の準備状況について報告があった。また、資料７によりプログラムの概要・会場等について、資料８により会議当日の運営方法について説明があった。

6．炉物理委核融合炉専門部会報告

浅見氏から２月１８日の炉物理委員会の核融合炉専門部会での討議について、特にＩＴＥＲに関する討議について報告が行われ、その会合で配布されたＩＴＥＲの資料（資料９）について説明があった。また、椙山氏、五十嵐氏から補足の説明があった。

7．６３年度シグマ委活動計画検討

（１）医学用原子分子・原子核データＷＧ

３月１０日に行われた拡大幹事会について、資料１０により浅見氏から報告があった。これに対して、医学用のどんなデータベースを作る必要があるのかはっきりさせる必要があること、また医学分野からのリクエストも変化してきているのではないか等の意見があり、早急にad-hoc会合を開催してこの問題を詰めることにした。世話役は中嶋氏に依頼することにし、ad-hoc委のメンバーは尾内（癌研）、喜多尾（放医研）、中井、沼宮内（原研）、飯島、村田（NAIG）、水本（原研）の各氏とすることにした。

（２）核構造評価グループ

五十嵐氏から３月１５日のグループ会合で、今後はＢＮＬとの連絡は五十嵐氏がやり、グループリーダには喜多尾氏（放医研）がなること、核データセンターとの関係を明確にしたこと等について報告があった。

（３）核種生成量評価ＷＧ

内藤氏から最近のＷＧ会合での討議について報告があった。その中でＣＯＭＲＡＤの定数については（α、ｎ）に~~重点を置いて~~積極的に整備を進める、定数作成はＷＧ作業でやり計算コードの整備は研究室の仕事としてやる旨の説明があった。

（４）炉定数専門部会

長谷川氏から３月１５日のＪＥＮＤＬ－３Ｔ積分テスト結果検討会の概要いついて報告があった。また、飯島氏から補足の説明があった。これに関連して、浅見氏からＪＥＮＤＬ編集グループでの討議について、また金子氏からＮＥＡＣＲＰでの関連議論について説明があった。

炉定数専門部会としては、６３年度は６つのＳＷＧが各３回で計１８回の会合を開催したいとの説明があった。

（５）特殊目的核データＷＧ

飯島氏から資料１１により、今後は（α、ｎ）、ＤＰＡ、photoreactionの３つのサブＷＧで作業を進めるとの説明があった。

これら６３年度の計画に関連して、各ＷＧグループから来年度のＷＧ会合開催計画を出して貰うよう事務局から依頼することにした。

８．６３年度核データ研究会

討議の結果、開催時期は１１月中旬～１２月上旬とし、実行委員長を瑞慶覧氏に依頼することにした。瑞慶覧氏には実行委員のメンバーとともに構想をまとめてもらうことにした。

９．国際核融合核データファイルについて

椙山氏からＩＴＥＲをめぐる情勢について説明があり討議を行った。

その中で、学会の特別会合の事務局報告でシグマ委としての説明をしたらどうか、何時も玉虫色の対応で良いのか、核融合会議などでＩＴＥＲとの関係をはっきりさせて欲しい、FENDLの作業はＷＧ作業にプラスになるのならよいが余計な作業になるのならやめた方が良い、核データセンターの責任でやればよい、何れにしてもＪＥＮＤＬ－３が最優先である等の意見があった。

また、この議論に関連して村田氏から核融合核データＷＧでの議論で、~~ＦＥＮＤＬの分担作業はＪＥＮＤＬ編集グループのメンバーが分担し、その~~検討をＷＧで行うことにしたとの説明があった。

各作業担当者の作業結果まつ

次回は４月２２日（金）東京で行うことにした。